

二〇二二年六月四日

綺羅の波をどる溪流山女釣
辻地藏空き缶に挿す春紫苑
昼灯す学び舎の窓梅雨滂沱

みきお
智恵子
満天

二〇二二年六月三日

笹百合の真直ぐに立ちしなぞへかな
伝統の田植えさながら里絵巻
梅雨灯し壁に神楽の面笑ふ
夜の帳下りて温泉に聴く青葉木菟
残心は竹刀のしなり堂涼し

明日香
みきお
なつき
凡士
素秀

二〇二二年六月二日

ぬばたまの闇に一灯初螢
夏燕掠める肩は大師像
煉瓦塀 蔦広げゆく夏館

みきお
素秀
ぼんこ

二〇二二年六月一日

病葉の瀬にをどりゆく速さかな
紫陽花の毬木漏れ日に踊りけり
伊吹嶺に一朵の雲や麦の秋
梅落とす巫女の二の腕眩しかり

たか子
そうけい
凡士
みきお

二〇二二年五月三十一日

硝子鉢涼しレタスを山盛りに
田に映る白山に苗植ゑにけり

満天
凡士

二〇二二年五月三〇日

ためらひててんとう虫は指を発つ
梅雨晴やピリッと辛きおろしそば
立葵色を重ねて上りけり
大き口ひし形に開け燕の子
梅雨晴間コウノトリ二羽旋回す

素秀
凡士
みきお
あひる
こすもす

二〇二二年五月二十九日

サングラス下手な英語も大胆に
大風車青嶺に雲を払ひけり
つり橋を揺らす子の列夏帽子
里山の指呼に高音の河鹿笛

凡士
素秀
みきお
たか子

毎日句会みのる選・二〇二二年六月六日